

「(SEND プログラム シドニー大学スプリングスクール) 参加報告書」

京都大学農学部 1年 (押村亜沙美)

私は今回の派遣によって主に二つのことについて学びました。

一つ目は日本ほど平和な国はないということです。私が行ったシドニーは緑豊かで人々も優しくとても穏やかな所でした。ただ、街中にはお金を求める乞食が何人もいて、これはとても意外でした。以前サンフランシスコに行った時にも乞食を見て嘔然としましたが、今回また目にしたことで、移民を多く受け入れることの難しさを感じました。日本に来る移民は少ないけれど、今後徐々に増えていくと考えられているので、日本も同じようになってしまうのかなど考えると悲しかったです。今回の派遣の間に私は盗難にあい、辛い思いをしましたが、領事館の方からシドニーは格差が大きいから盗難は日常茶飯事なのだと聞いて、私の鞆を取っていった人はそんなことをしないと生活できないのかと思うと少し泥棒が可哀想に思われました。移民が定職について、まともな暮らしを送れるようにすることは、移民の為だけでなく観光客や住民の安心感の向上にも繋がると思うので早急に取り組んで欲しいと思いました。

二つ目はオーストラリアの人々はとても日本に、特に日本のサブカルチャーに詳しいということです。日本に関するプレゼンをした時や日本語のクラスに入った時に感じたのですが、日本に興味を持っている人の多くは日本のサブカルチャーが好きなようでした。私は全然漫画やアニメに詳しくないので、彼らに私のことを期待していた日本人とは違うといった目で見られているように感じ、それが悲しかったです。また、日本に行ったことがあるという人の中で京都に来たことがあると言っていた人が半数くらいだったのが驚きでした。プレゼンをした時の様子を見てみると彼らも茶道などの日本文化に興味がある上に、京都はとても日本の伝統文化が詰まった街なのに、観光客が東京に一極集中してしまうというのは勿体ないと思いました。なので、私は次に海外に行く時は有名な漫画を読んだり、アニメを見てサブカルチャーについて少し話せる状況にしておこうと思い、また京都でサブカルチャーのイベントを定期的に関開くなどして京都にもっと外国人を呼ぶPRをする必要があると感じました。

今回の派遣では盗難という辛い目に合いました。私自身シドニーだから大丈夫だろうと少し油断していた分もあったので、海外に行く時はどこに行くのであっても厳重に注意しなければならないということや焦った時には全く英語が耳に入って来なくなってしまっって何も自分ではできなかったということを痛切に感じました。当時一緒にご飯を食べていた現地の方や同じプログラムに参加していた方々の優しい手助けや佐々木先生やドニークラークさん、郵船トラベル様、シドニー領事館様の迅速な手配がなければ絶対に予定通り帰国することはできませんでした。無事に仲間と同じ飛行機で帰国できたことを心から有難く思います。

こんな経験をした後ですが、私はまたすぐに海外に行きたいと思いました。それは、これ以外にシドニーでも良い経験を English Communication の時間や観光を通じて沢山させてもらえたからです。やはり海外は、日常的に英語を使う環境を提供してくれて、それは英語力を向上させたい私にとって魅力的でありまた、海外で見る日本とは全然違う文化の数々にはやはり興味をそそられます。私は自分の学科のカリキュラムの関係上、半年留学することは難しいけれど、今回のようなプログラムに参加することで自分を高めていけたらいいなと思いました。

この度は多くの方々にご迷惑をかけてしまいましたが、これからは安全第一で快適な海外生活が送れるように気を付けていきたいと思っています。